神奈川県立
公文書館だより

第55号
編集発行　神奈川県立公文書館
〒241-0815　横浜市旭区中尾1－6－1
電 話 045（364）4456
FAX 045（364）4459
https：//archives.pref.kanagawa.jp/
休館日：月曜日、祝日（月曜日と重なる場合は翌日）、年末年始（12月28日から1月4日）

夏休み親子講座「二俣川駅開業百年」

令和八年七月二十五日・二十六日

今年度は開催時間を午前中に変更し、「夏休み親子講座」を開催しました。二日間にわたって、六十八名の参加者を迎えました。

今年度の講座は、当館の最寄り駅である二俣川駅の開業百年を記念し、その名もずばり「二俣川駅開業百年」と題して、所蔵資料を中心に、二俣川と相鉄線のこれまでを振り返りました。また、企画展示「二俣川百年の記憶―駅とまちの歩み―」と連動させ、展示資料の画像を一部用いました。


講座風景

前半の講師の話は三つのパートに分けて進めました。初めのパートでは、駅が開業するまでの二俣川の様子を見ていきました。二俣川の由来や鎌倉時代に編纂された『吾妻鏡』に登場する歴史の古さを説明しつつ、相鉄線のルートが計画段階で変更となった箇所を当時の地図で考えてもらいました。また、開業翌日に掲載された新聞記事の内容を紹介することで、初めて見る鉄道に盛り上がっている沿線の様子を味わってもらいました。

二つ目のパートは、路線開通直後から戦中の時期を取り上げました。神中鉄道として開通した路線が、別の路線を運行していた相模鉄道に変わったターニングポイントを紹介したり、駅周辺の地図を比較して、二俣川駅の両隣の駅の変遷等に注目してもらいました。また、三択クイズでは、当時発売されていた割引切符の種類に関する問題を出題したところ、現在からは想像しがたい内容から、驚きの声が上がりました。

最後のパートでは、戦後の二俣川と相鉄線の様子を紹介しつつ、当館の概要や資料を守り・伝えていくことの重要性を伝えて、お話を締めました。

後半は、バックヤードツアーです。書庫や選別室といった、普段入ることができない場所を中心に、職員の普段の勤務の様子や講座に関連した資料を見てもらいました。受講後のアンケートを拝見すると、参加者のインパクトに残る体験になったようです。

今回の講座の内容は、地元・二俣川、かつ、子どもに人気のある鉄道に関するテーマを設定したこともあってか、参加者からは、身近だけど意外と知らない歴史を学べた等、好意的なご感想を頂戴しました。

今回の講座をきっかけに、当館の存在や業務内容をご理解いただき、また、夏休みの幕開けを飾る良い思い出になったのであれば、幸いだと思います。

（資料課　吉村雄多）

◆三択クイズ
横浜方面と二俣川間で販売された割引切符は？

①芋掘り　②栗拾い　③茶摘み

※クイズの答えは巻末を参照

令和八年度 企画展示
「二俣川百年の記憶ー駅とまちの歩みー」
令和八年七月十七日～九月二十七日

■二俣川駅百周年を記念して

当館の最寄り駅である相鉄線・二俣川駅は、今年で開業百年を迎えました。これを記念して、駅とまちが歩んできた歴史をふりかえる展示を企画しました。当館収蔵の歴史的公文書や古文書・私文書に加えて、相鉄グループご協力のもと、昔の駅や車両の写真、戦前の沿線案内等を含む八十点以上の資料を公開しました。

本展示は、時系列順の第一～四章と附章で構成しました。




（右）「二俣川駅誕生の頃」展示風景（第2章）
（左）相鉄グループ所蔵の行先掲示板（附章）

■展示各章の内容

第一章では、駅ができる前の二俣川について、鎌倉御家人の畠山重忠・江戸時代の二俣川村・明治期の「行政村」二俣川村の三つのトピックを設けました。

第二章では、神中鉄道の駅として大正十五（一九二六）年に二俣川駅が誕生し、厚木や横浜とつながり、戦時中に相鉄への吸収合併や国の線路買収を経て現在の相鉄線が形成されていくというめまぐるしい変化の時代を取り上げました。

第三章では、高度経済成長期の二俣川について、運転免許センターに代表される県施設の開設、地元小学校の分校設置やその独立、いずみ野線の開業等、賑わいが広がる時代として焦点を当てました。

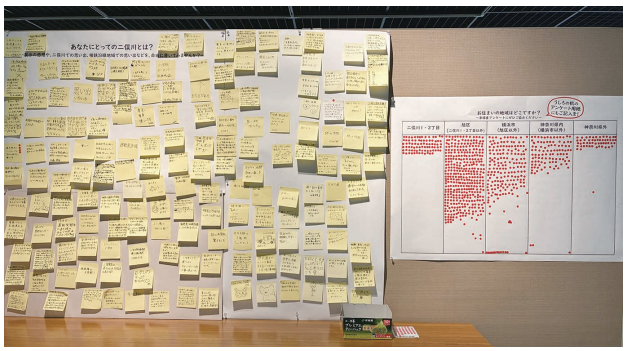
第四章では、昭和末期以来の駅北口・南口の再開発、いずみ野線の延伸や神奈川東部方面線の整備、県施設の再編等、現在のような交通の結節点としての二俣川が成立していく時期に注目しました。

以上の各章は、当館収蔵資料と相鉄グループ所蔵資料を組み合わせて構成しましたが、附章では相鉄グループ所蔵資料のみを展示しました。昭和三十年代に列車の先頭に付けられていた行先表示板や駅名標、改札鋏等、今では見かけない貴重な物品のほか、昭和三十一（一九五六）年に撮影された相鉄の乗務員の勤務風景映像も放映しました。

■展示の反響

四千名近い方々にご来場いただき、大変好評でした。開催期間中に二回、展示担当者による解説会を実施した際には、のべ約百名にご参集いただき、展示室が満員になりました。

本展示では、簡易な参加型アンケートを二つ実施しました。一つは、居住地について、二俣川・旭区（二俣川除く）・横浜市（旭区除く）・神奈川県（横浜市除く）・県外のいずれかに丸シールを貼るというものです。二俣川を含む旭区内の方が半数を占める一方で、意外にも県外の方も少なくありませんでした。もう一つは、二俣川や相鉄沿線地域での思い出、展示の感想等を付箋紙に自由に書いて掲示用紙に貼るというものです。多くの方にご参加いただき、開催一か月にも満たないうちに貼付スペースが足りなくなりました。回答内容も多様で、「昔から近辺に住んでいるからその頃の資料や写真が懐かしい」「初めて二俣川に来た」「二俣川で運転免許を取った思い出」「二俣川の魅力をあらためて感じた」等の声が寄せられました。なかには既に貼られている付箋紙に関連する回答を書かれた方もおり、アンケートコーナーも含めて展示を楽しんでいただけたのではないでしょうか。



（右）居住地アンケート（丸シール）
（左）自由感想アンケート（付箋紙）
※令和8年9月3日撮影

本展示が、二俣川の歴史と、そこで三十年以上活動してきた公文書館をより深く知っていただくきっかけになりましたら嬉しいです。

（資料課　井ノ元ほのか）

公文書館のおしごと紹介 文書の廃棄

公文書館の最も重要な仕事の一つが公文書の選別で、その結果、毎年三千点ほどの公文書が歴史資料として保存となります。

一方、保存とならなかった文書は、神奈川県立公文書館条例に基づき「確実に、かつ、速やかに廃棄」しなければなりません。この「廃棄」も公文書館の重要な仕事の一つです。

廃棄といっても、個人情報等の機密情報が含まれているため、普通の紙ごみのように資源ごみとして捨てるわけにはいかず、専門業者に委託し、製紙工場等に運搬の上、破砕・溶解し製紙原料として再生利用できるように処理します。

ところが、再生利用には予め紙以外の異物、特にプラスチックの分別除去が必要で、これが実に大変な作業なのです。

中でも、最も厄介なのがプラスチック製のクリアフォルダーで、例えば、事業者からの申請書等が数枚ずつ丁寧にクリアフォルダーに挟まれて、文書保存箱にぎっしり納められていたりします。それを一つずつ引き抜き分別するのは相当の手間と時間を要します。

そこで当館では、昨年度からこの分別作業を「かながわチャレンジオフィス」に依頼しています。



異物混入文書の山とチャレンジオフィスによる分別作業

「かながわチャレンジオフィス」とは、民間企業等への就職を目指す障害のある人を県が非常勤職員として雇用し、就労経験の機会を提供するための職場です。そのオフィスの職員が公文書館に出張し、異物混入文書を分別してもらうことで、私たちの負担が大幅に軽減され、大変助かっています。

近年は行政の電子化が進み、いわゆる電子公文書も増えてきてはいますが、まだまだ紙文書はなくなりそうもありません。こうした紙文書の廃棄処理というアナログな手作業もまだまだ続きそうです。

（資料課　板橋秀実）

職員ペンリレー 公文書館を紹介します

■公文書館の大きさ

公文書館は、山に囲まれた低地にあり、歌舞伎座とほぼ同じ敷地面積があります。美しい自然に囲まれた4階建ての堅固な建物で、過去の貴重な多くの記録が眠っています。

■四季を織りなす自然

春は、やはり桜が綺麗です。今まで気づかなかったのですが、駐車場の入り口近くに淡い黄色の花の一群が目に止まりました。確認したところ、三椏（ミツマタ）とのことでした。紙の原料という知識しかなかったのですが、すっかりファンになりました。また、鶯の声が公文書館の壁に反響し、のどかな春を演出してくれます。梅雨が近づくと、白・桃・紫の紫陽花が急に姿を現し、背景とのコントラストが見事です。秋には、銀杏、紅葉が建物を囲みます。特にエントランスホールから見る紅葉は、華麗なステンドグラスみたいです。公文書館の周りは遊歩道となっており、年中無休でどなたでも利用できますので、ご利用ください。



満開となった三椏（ミツマタ）の木

■ゲストが辿る過去の記録

◉ファミリー・ヒストリー
◉神奈川県で活躍した偉人の軌跡
◉家族の診療記録や旅券申請記録
◉研究に必要な古文書

このような記録を求め、日々ゲストが来館されます。過去の情報を調べたい方は、気軽に足をお運びください。スタッフ一同、全力でお手伝いします。

■さいごに

県の花はヤマユリ、県の鳥はカモメ、県の木はイチョウです。公文書館の建物には、これらが隠れています。来館した際には、是非チェックしてみて下さい。

（資料課　棚村佳保）

収蔵資料紹介

相模国大住郡菩提村 杉崎家文書

令和六年三月八日に購入した杉崎家文書は、相模国大住郡菩提村（現在の秦野市菩提）の名主などを務めた杉崎家に伝来した資料群です。

菩提村は金沢藩（後の六浦藩）主米倉家の領知で、杉崎家文書からは同藩の地方支配の一端が窺えます。

杉崎家文書の整理にあたっては、次表のとおり分類を行いました。

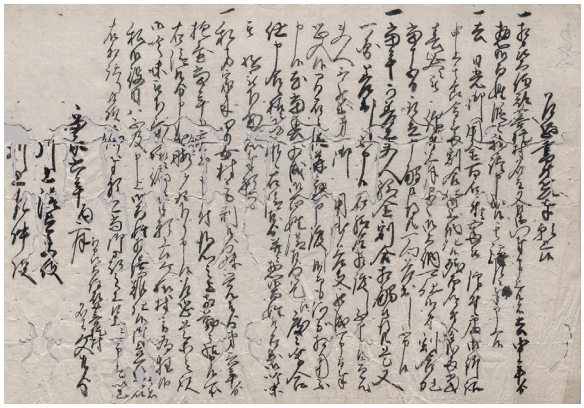
1．菩提村	1．1．村政	
	1．2．年貢・租税	
	1．3．戸口	
	1．4．土地	
	1．5．鉄砲	
	1．6．山論	
	1．7．助郷	
	1．8．村方騒動	
	1．9．田水引一件	
2．杉崎家	2．1．金融	
	2．2．寺社	
	2．3．藤助	
	2．4．奉公人	
3．その他		

このうち山論は、『秦野市史 第二巻 近世史料1』所収「194宝暦九年横野・菩提両村入会野争い裁許につき請書」（一七五九年）の前後となる資料であり、同争論の経過を更に知ることができる文書です。

また田水引一件は、明和八（一七七一）年の干ばつ時に、田に引く水をどのように配分するかのやり取りを記した文書となっています。

杉崎家文書は、当館ホームページ「収蔵資料検索システム」から検索できます。

（資料課　上田良知）



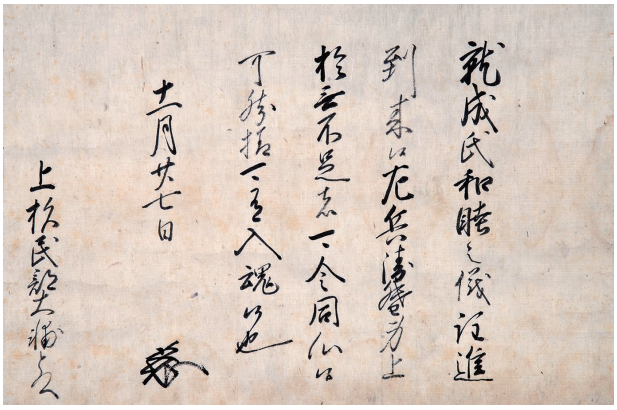
杉崎家文書 村方騒動関係文書　ID2202501054

令和8年度 展示のご案内

◆企画展示

「れっつ！こもんじょ ―公文書館所蔵中世文書の世界―」

10月23日（金）から12月20日（日）まで



喜連川文書　ID2200930202

◆企画展示

「公文書館資料に見る『選挙』」（仮）

令和9年1月22日（金）から
3月28日（日）まで

※詳細は後日当館ホームページでお知らせします。

令和8年度 講座のご案内

◆アーカイブズ講座

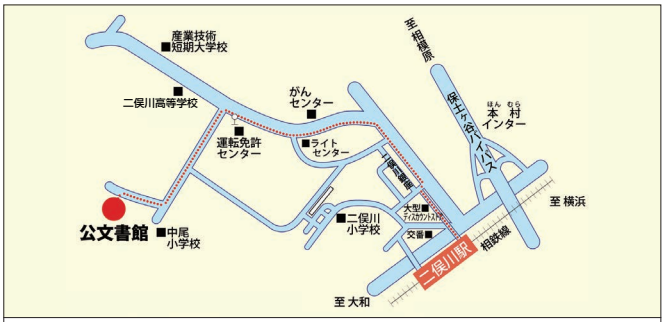
「昭和の歴史的公文書に親しむ ―戦後期編―」

11月1日（日）

◆古文書講座応用編

11月15・22・29日の各日曜日（全3回）

公文書館へのアクセス



電車の場合　相鉄線「二俣川駅」下車、二俣川駅北口より徒歩17分
二俣川駅北口より相鉄バス「旭23運転免許センター循環二俣川駅北口」行きで「運転免許センター」停留所下車、徒歩3分
車の場合　「保土ヶ谷バイパス」本村インターから6分
※駐車スペースが少ないため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

1ページのクイズの答え：②